

3 一～五類全数把握感染症

(1) 一類感染症

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱は報告がなかった。

(2) 二類感染症

急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、中東呼吸器症候群、鳥インフルエンザ（H5N1）、鳥インフルエンザ（H7N9）は報告がなかった。

(3) 三類感染症

ア 細菌性赤痢

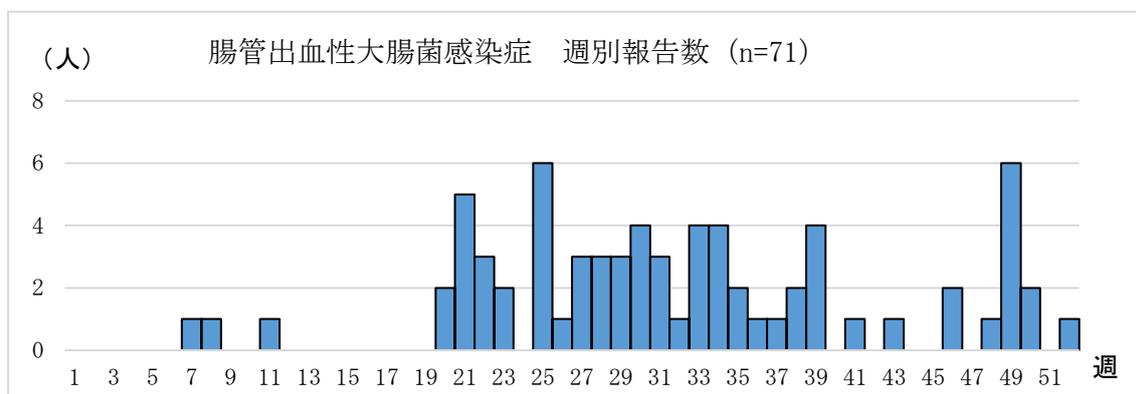
2019年は3人の報告があった。菌種はすべて *S.flexneri* であった。性別は男性が1人、女性が2人で、年齢階級別では20～29歳2人、70～79歳1人であった。

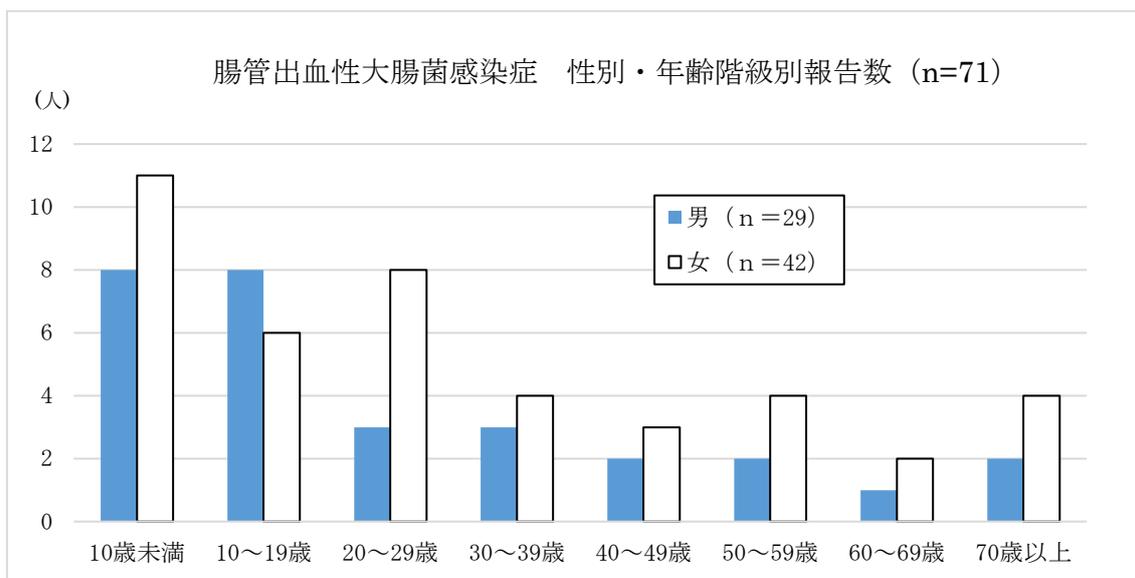
このうち輸入例は1例で、推定感染地域はカンボジアであった。3人とも経口感染によると推定された。

イ 腸管出血性大腸菌感染症

2019年は71人の報告があった。症状別では患者51人、無症状病原体保有者20人であった。性別は男性29人、女性42人で、年齢階級別では10歳未満19人（うち5歳未満11人）、10～19歳14人、20～29歳11人、30～39歳7人、40～49歳5人、50～59歳6人、60～69歳3人、70歳以上6人であった。推定感染地はシンガポールが1人、その他は国内であった。

溶血性尿毒症症候群（HUS）と診断された者は7人であった。うち10歳未満は4人であった。





腸管出血性大腸菌感染症 血清型・毒素型別報告数 (n=71)

血清型	毒素型	件数	血清型	毒素型	件数
08	VT2	2	0157	VT1	4
026	VT1	8		VT2	16
0103	VT1	8		VT1、VT2	24
不明	VT1	1		不明	6
	VT2	1			
	不明	1			

溶血性尿毒症症候群発症例 (n=7)

受理日	性別	年齢	血清型・毒素型	推定感染地
2/14	男	82	0 不明 毒性不明	国内
6/19	女	8	0157 毒性不明	国内
6/19	女	5	0157 VT2	国内
6/20	男	19	0157 毒性不明	国内
7/4	女	26	0157 VT1、VT2	国内
10/7	女	4	0157 VT2	国内
12/27	女	3	0157VT1、VT2	国内

ウ その他の疾患

コレラ、腸チフス、パラチフスは報告がなかった。

(4)四類感染症

ア E型肝炎

2019年は1人の報告があった。性別は男性1人で、年齢階級別は80～89歳であった。推定感染地、推定感染経路は不明。

イ A型肝炎

2019年は8人の報告があった。性別は男性6人、女性2人で、年齢階級別では10～19歳が1人、20～29歳1人、30～39歳3人、40～49歳1人、50～59歳1人、60～69歳1人であった。遺伝子型はIA型が6例検出された。

推定感染地は国内6人、国外1人、不明1人であった。国外の推定感染地はエリトリアであった

推定感染経路は、経口感染4人、性的接触4人であった。性的接触の4人はすべて同性間性的接触であった。

ウ デング熱

2019年は19人の報告があった。性別は男性12人、女性7人、年齢階級別は、10～19歳2人、20～29歳5人、30～39歳2人、40～49歳4人、50～59歳6人であった。血清型の内訳は1型9人、2型2人、3型1人、4型2人、その他は不明であった。

推定感染地はすべて国外で、推定感染国は、カンボジア6人、フィリピン4人、タイ、ベトナムが各2人、インドネシア、スリランカ、モルディブ、ドミニカ共和国が各1人、であった。その他にタイ、マレーシア、シンガポールの3か国が1人であった。

エ 日本紅斑熱

2019年は2人の報告があった。性別は男性、女性1人で、年齢階級別は60～69歳が1人、70歳以上が1人であった。推定感染地はすべて国内であった。

オ マラリア

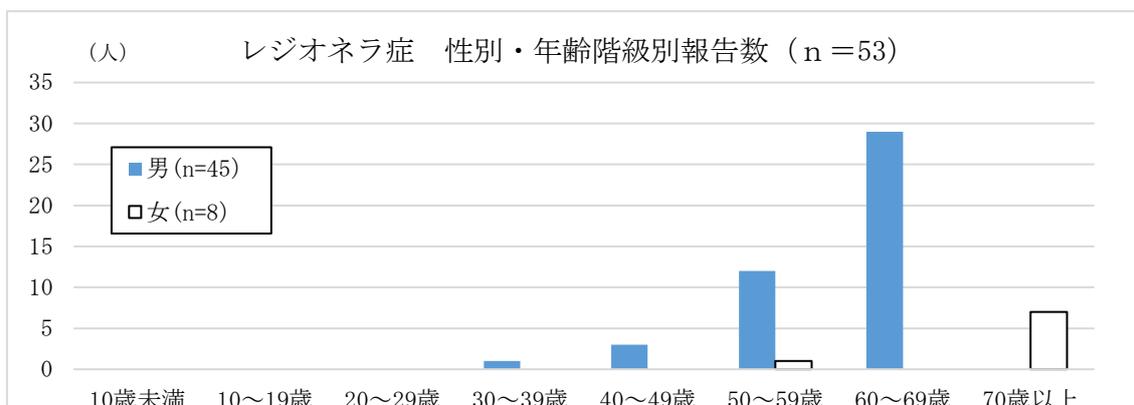
2019年は1人の報告があった。性別は男性で、年齢階級別は20～29歳であった。病型は熱帯熱マラリアであった。推定感染地はベナン共和国であった。

カ レジオネラ症

2019年は53人の報告があった。病型は肺炎型50人、ポンティアック熱型が2人、無症状保菌者が1人であった。性別は男性45人、女性8人、年齢階級別は30～39歳1人、40～49歳3人、50～59歳13人、60～69歳29人、70歳以上7人であった。

推定感染地は国内48人、不明5人であった。推定感染経路は水系感染19人、塵埃感染2人、不明31人、その他1人であった。水系感染のうち、公衆浴場施設（温泉を含む）の

利用歴がある者が 14 人、遊泳場の利用歴がある者はいなかった。



キ チクングニア熱

2019 年は 1 人の報告があった。性別は男性で、年齢階級別は 50～59 歳であった。推定感染経路は動物・蚊・昆虫等からであった。推定感染地はミャンマーであった。

ク つつが虫病

2019 年は 1 人の報告があった。性別は男性で、年齢階級別は 60～69 歳であった。推定感染経路は動物・蚊・昆虫等からであった。推定感染地はラオスであった。

ケ その他の四類感染症

以下の疾患は届出がなかった。

ウエストナイル熱、エキノコックス症、黄熱、オウム病、オムスク出血熱、回帰熱、キャサナル森林病、Q 熱、狂犬病、コクシジオイデス症、サル痘、ジカウイルス感染症、重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス族 SFTS ウイルスであるものに限る。)、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ (H5N1 及び H7N9 を除く)、ニパウイルス感染症、日本脳炎、ハンタウイルス肺症候群、B ウイルス病、鼻疽、ブルセラ症、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、発しんチフス、ボツリヌス症、野兔病、ライム病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、類鼻疽、レプトスピラ症、ロッキー山紅斑熱。

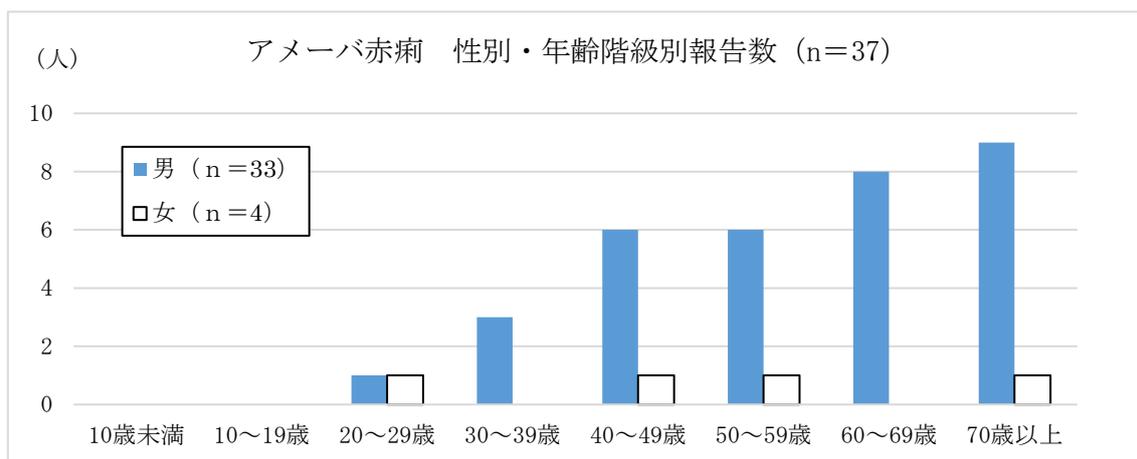
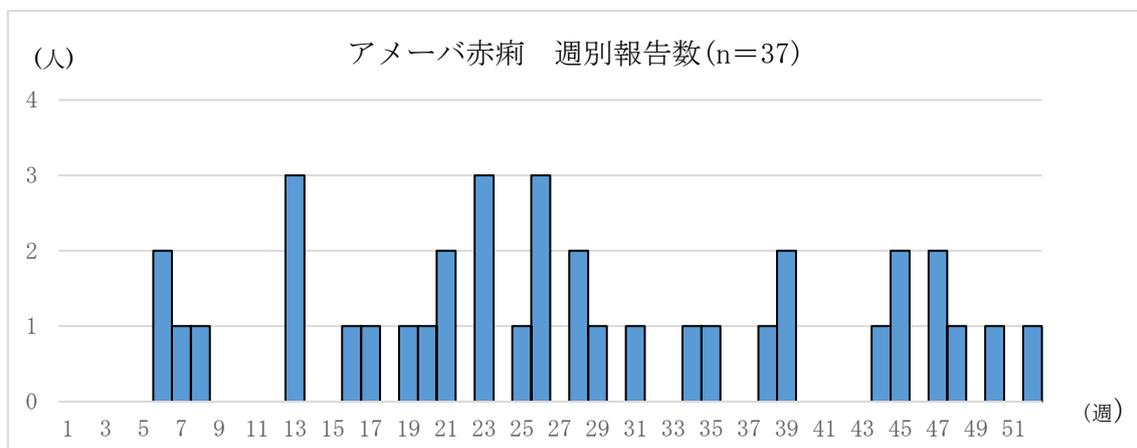
(5)五類感染症(全数把握対象)

ア アメーバ赤痢

2019 年は 37 人の報告があった。腸管アメーバ症 35 人、腸管外アメーバ症 1 人、腸管及び腸管外アメーバ症 1 人であった。性別は男性 33 人、女性 4 人で、年齢階級別では 20～29 歳 2 人、30～39 歳 3 人、40～49 歳 7 人、50～59 歳 7 人、60～69 歳 8 人、70 歳以上 10 人であった。

推定感染地は国内 30 人、国外 2 人、不明 5 人であり、国外感染例 2 人の推定感染国はタイ、台湾各 1 人であった。

推定感染経路は、性的接触 12 人（異性間 7 人、同性間 4 人、性別不明 1 人）、経口感染 5 人、不明 20 人であった。



イ ウイルス性肝炎(E 型肝炎及び A 型肝炎を除く。)

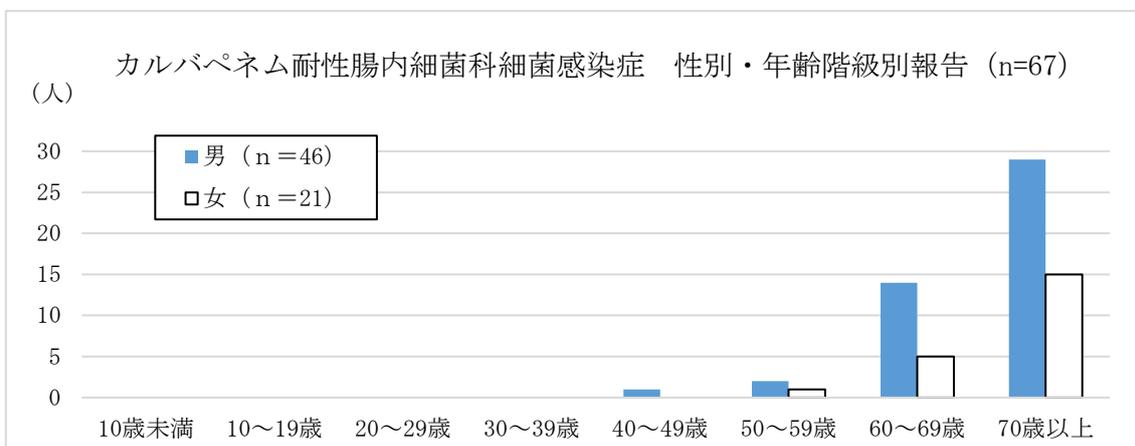
2019 年は 11 人の報告があった。病型は B 型肝炎が 9 人、C 型肝炎が 1 人、サイトメガロウイルス 1 人であった。性別は男性が 10 人、女性 1 人で、年齢階級別では 20～29 歳 4 人、30～39 歳 3 人、40～49 歳 2 人、50～59 歳 1 人、60～69 歳 1 人であった。

推定感染地は国内が 8 人、不明 3 人で、推定感染経路は性的接触 8 人（同性間 2 人、異性間 3 人、不明 3 人）、不明 2 人、その他 1 人であった。

ウ カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

2019 年は 67 人の報告があった。性別は男性 46 人、女性 21 人で、年齢階級別では 40～49 歳 1 人、50～59 歳 3 人、60～69 歳 19 人、70 歳以上 44 人であった。推定感染地

は国内 62 人、不明 5 人であった。CPE（カルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌）は 10 件あり、内訳は *Escherichia coli* は 4 件、*Enterobacter cloacae* は 1 件、*Klebsiella pneumoniae* は 4 件、*Citrobacter koseri* および *Citrobacter farmeri* は各 1 件であった。



カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 分離菌種 (n=63)

菌種	分離件数 (CPE 株数)	菌種	分離件数 (CPE 株数)
<i>Escherichia coli</i>	7(4)	<i>Klebsiella pneumoniae</i>	11(4)
<i>Enterobacter cloacae</i>	21(1)	<i>Serratia marcescens</i>	9
<i>Enterobacter aerogenes</i>	10	<i>Citrobacter braakii</i>	3
<i>Enterobacter asbriae</i>	1	<i>Citrobacter koseri</i> および <i>Citrobacter farmeri</i>	1(1)

エ 急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)

2019 年は 4 人の報告があった。性別はすべて男性で、年齢階級別ではすべて 10 歳未満であった。

推定感染地はすべて国内であった。病原体はロタウイルスが 1 人、不明 3 人であった。

オ クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)

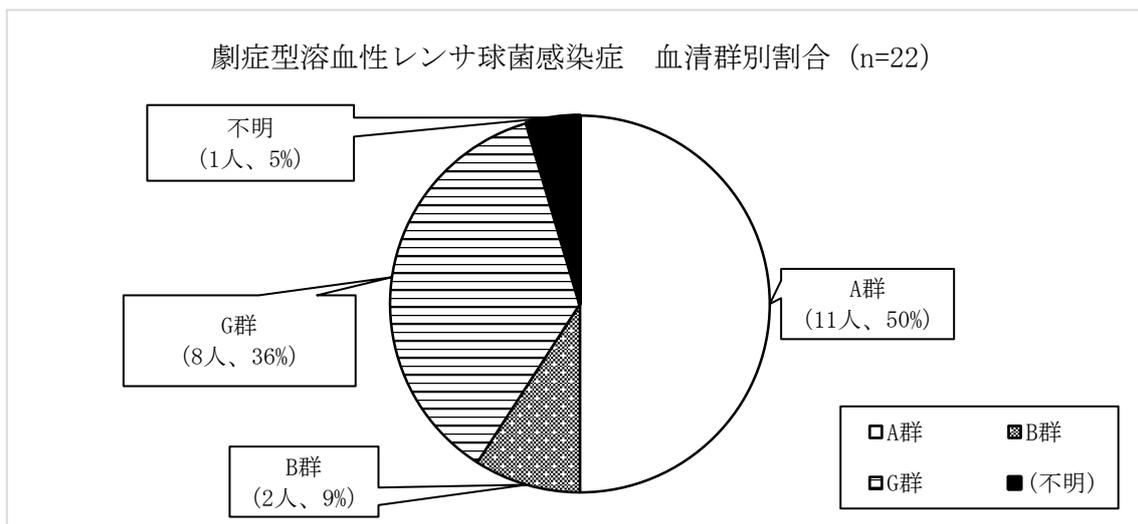
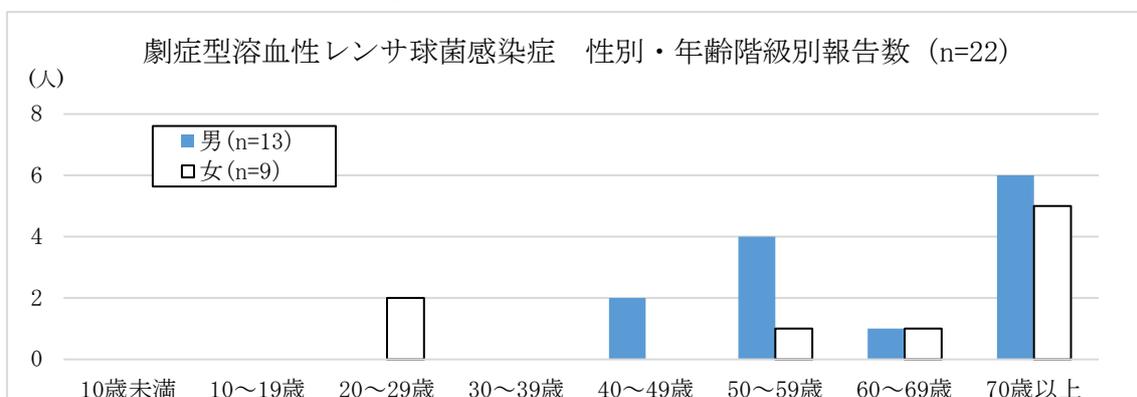
2019 年は 4 人の報告があった。古典型クロイツフェルト・ヤコブ病 (ほぼ確実) 3 人、家族性クロイツフェルト・ヤコブ病 (ほぼ確実) が 1 人であった。性別は、すべて女性で、年齢階級は 60～69 歳 1 人、70 歳以上 3 人であった。

カ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

2019 年は 22 人の報告があった。昨年の報告数 11 人の 2 倍であった。性別は男性 13

人、女性 9 人で、年齢階級別では 20～29 歳 2 人、40～49 歳 2 人、50～59 歳 5 人、60～69 歳 2 人、70 歳以上 11 人であった。

推定感染地は国内 20 人、不明 2 人で、推定感染経路は創傷感染 9 人、飛沫・飛沫核感染 1 人、不明 12 人であった。



キ 後天性免疫不全症候群

2019 年は 107 人の報告があり、2016 年から 4 年連続で減少している。AIDS 患者 20 人、HIV 感染者 87 人（指標疾患以外の有症者 8 人、無症候性キャリア 79 人）であった。

AIDS 患者 20 人の性別はすべて男性で、年齢階級別では 20～29 歳 3 人、30～39 歳 7 人、40～49 歳 3 人、50～59 歳 5 人、60～69 歳 1 人 70 歳以上 1 人であった。

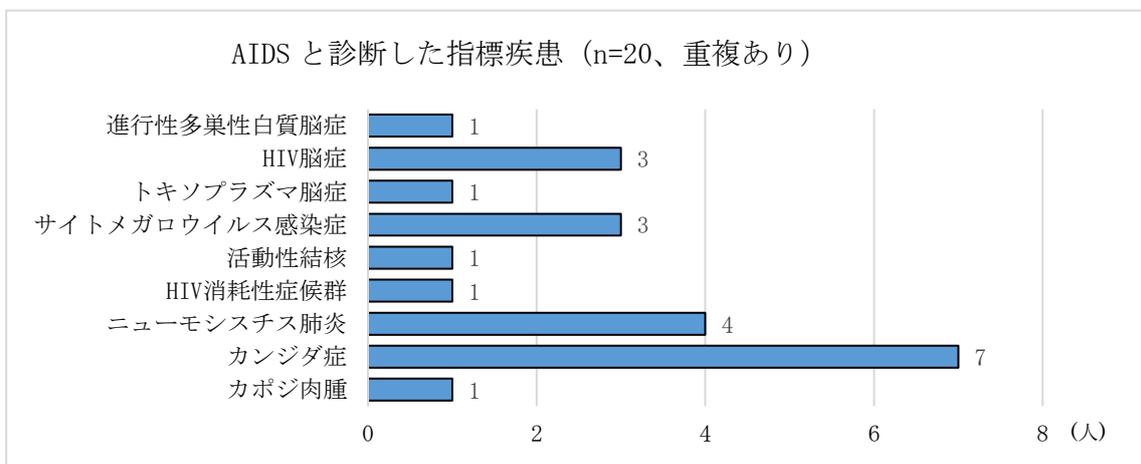
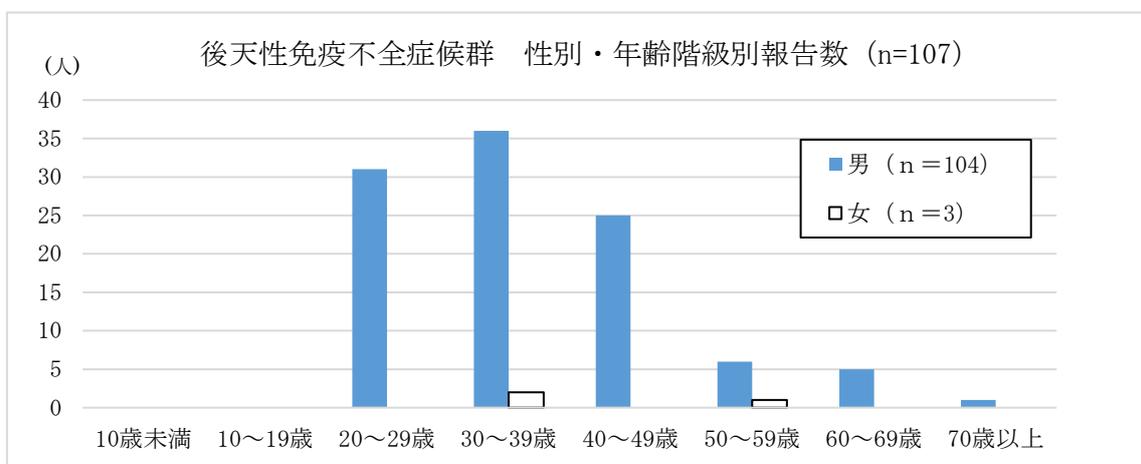
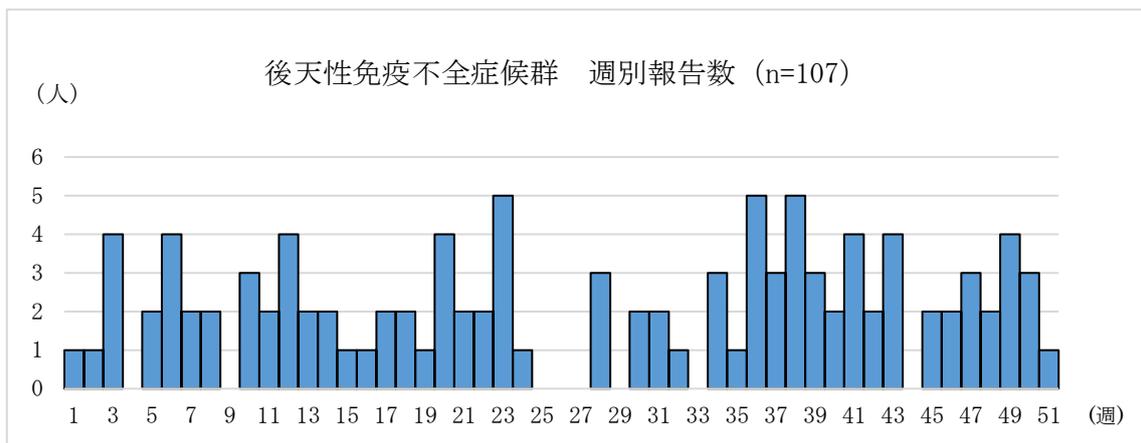
HIV 感染者のうち指標疾患以外の有症者の 8 人の性別はすべて男性で、年齢階級別では 20～29 歳 1 人、30～39 歳 2 人、40～49 歳 5 人であった。

HIV 感染者のうち無症候性キャリアの 79 人の性別は男性 76 人、女性 3 人で、年齢階級別では、20～29 歳 27 人、30～39 歳 29 人、40～49 歳 17 人、50～59 歳 2 人、60～69 歳 4 人であった。

推定感染地は国内 86 人、国外 11 人、国内または国外 1 人、不明 9 人であった。国外

感染例 12 人の推定感染国別では中国 3 人、台湾、大韓民国各 2 人、アメリカ合衆国、イギリス、インドネシア、オーストラリア各 1 人、タイ、香港、シンガポールの 3 か国が推定されたのは 1 人であった。また、中国を推定感染地域と報告があった 1 人は日本も推定感染地として挙げられていた。

推定感染経路が性的接触 97 人、不明は 10 人であった。性的接触は同性間 76 人、異性間 15 人、同性間および異性間 2 人、性別不明 3 人、2 経路以上 1 人（異性間性的接触または輸血）であった。



ク ジアルジア症

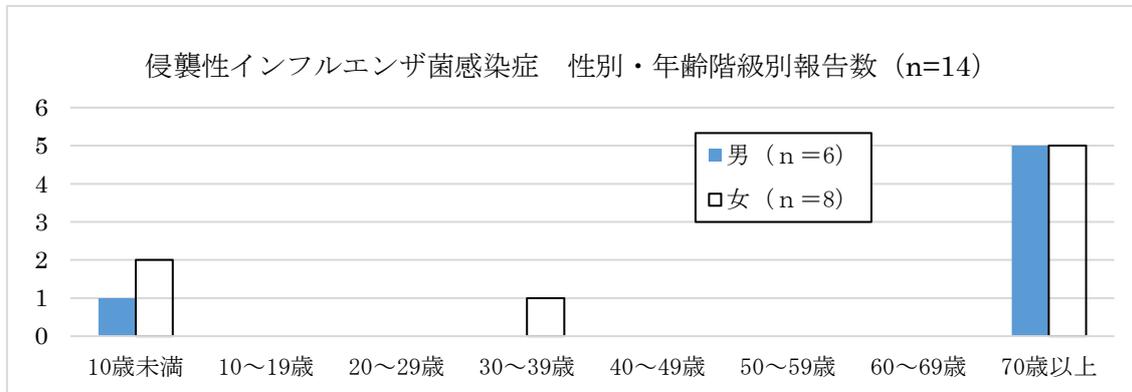
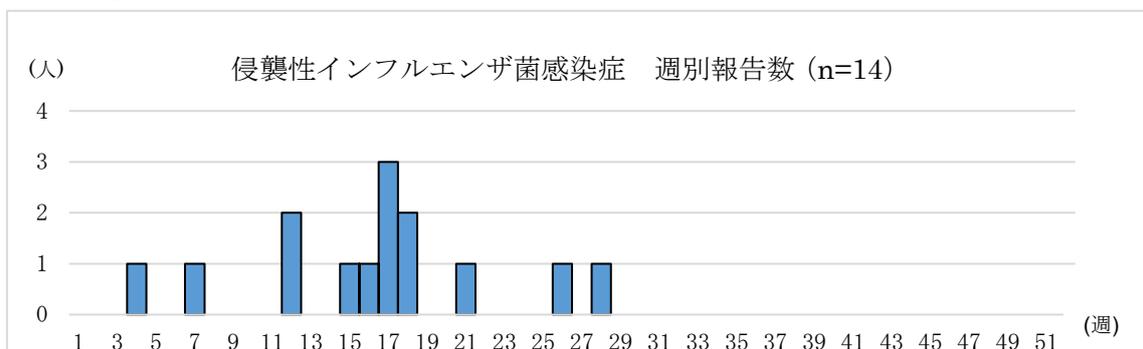
2019 年は 2 人の報告があった。性別はすべて男性で、年齢階級別では 30～39 歳が 1 人、40～49 歳が 1 人であった。

推定感染地は国内 1 人、インド 1 人であった。

ケ 侵襲性インフルエンザ菌感染症

2019 年は 14 人の報告があった。昨年の 31 人の半数以下であった。性別は男性 6 人、女性 8 人で、年齢階級別では 10 歳未満 3 人、30～39 歳 1 人、70 歳以上 10 人であった。

推定感染地はすべて国内であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 4 人、不明 10 人であった。



コ 侵襲性髄膜炎菌感染症

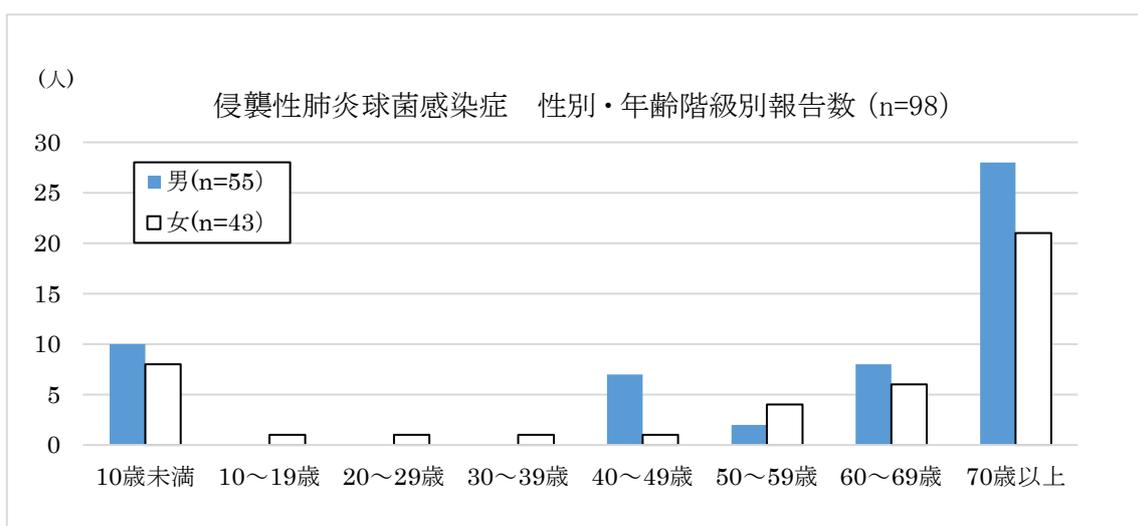
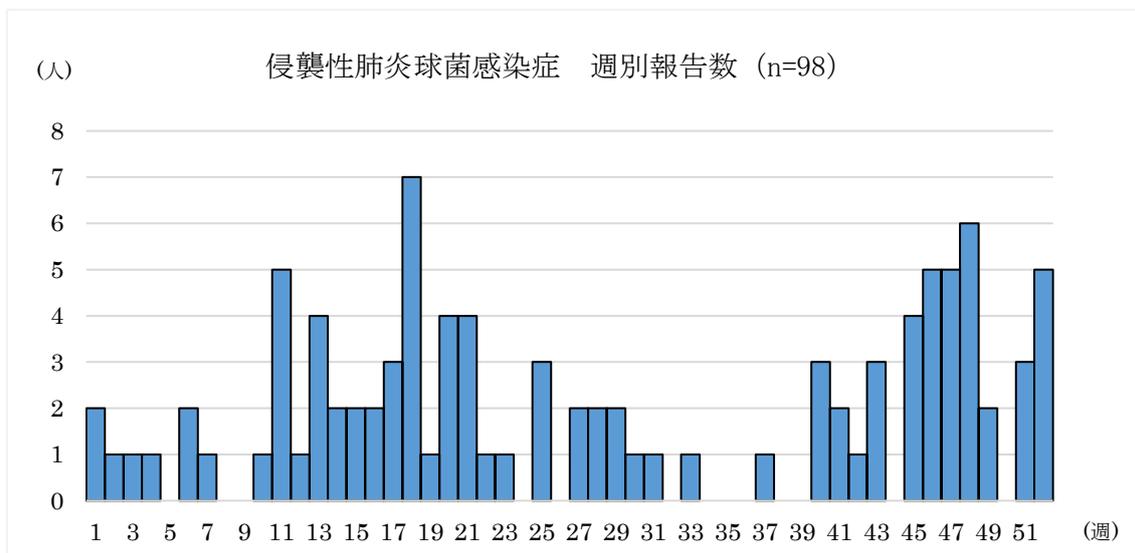
2019 年は 3 人の報告があった。性別は男性 1 人、女性 2 人で、年齢階級別では 50～59 歳 2 人、70 歳以上 1 人であった。推定感染地は国内 2 人、不明 1 人であった。推定感染経路は 3 人すべて不明、ワクチン接種歴なしが 2 人、不明が 1 人であった。血清型は Y 群 2 人、B 群 1 人であった。

サ 侵襲性肺炎球菌感染症

2019 年は 98 人の報告があった。性別は男性 55 人、女性 43 人であった。年齢階級別では 10 歳未満 18 人、10～19 歳 1 人、20～29 歳 1 人、30～39 歳 1 人、40～49 歳 8

人、50～59 歳 6 人、60～69 歳 14 人、70 歳以上 49 人であった。

推定感染地はすべて国内で、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 34 人、その他 5 人、不明 59 人であった。ワクチン接種歴は 4 回接種 8 人、3 回接種 8 人、2 回接種 1 人、1 回接種 11 人、接種なし 32 人、不明 38 人であった。



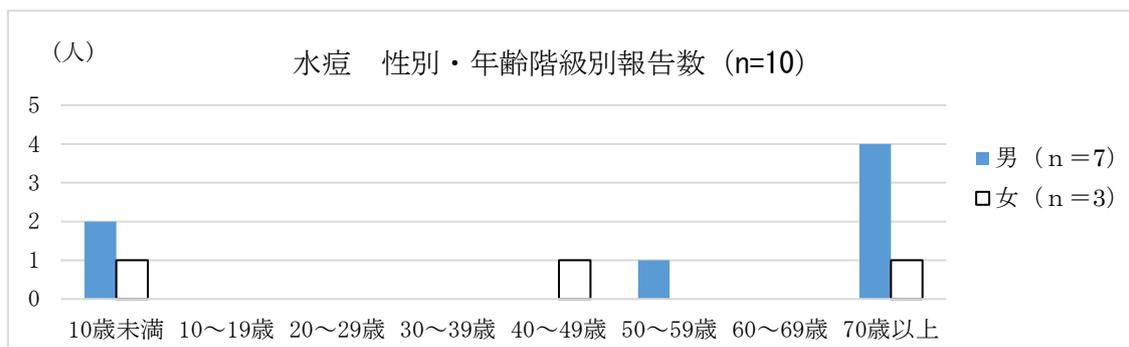
年齢階級別・ワクチン接種歴 (n=98)

	4 回接種	3 回接種	2 回接種	1 回接種	接種なし	不明	合計
5 歳未満	6	8	1	0	1		16
5～9 歳	2						2
10～64 歳				1	13	10	24
65 歳以上				10	18	28	56
合計	8	8	1	11	32	38	98

シ 水痘(入院例に限る)

2019年は10人の報告があった。性別は男性7人、女性3人で、年齢階級別では10歳未満3人、40～49歳1人、50～59歳1人、70歳以上5人であった。

推定感染地は国内8人、不明2人で、推定感染経路は接触感染1人、飛沫・飛沫核感染2人、不明7人であった。ワクチン接種歴は接種歴あり1人、接種なし5人、不明4人であった。



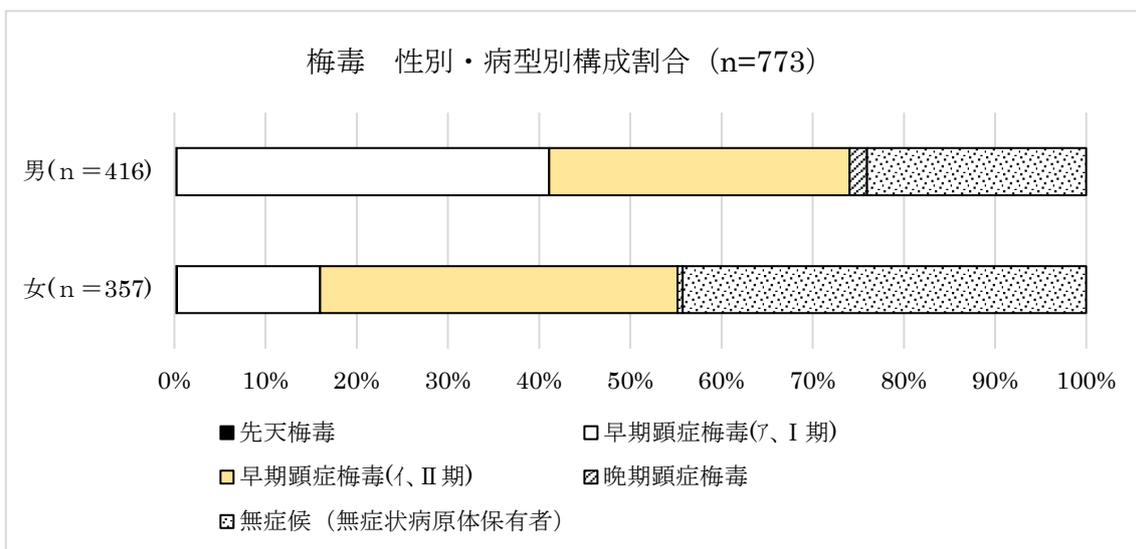
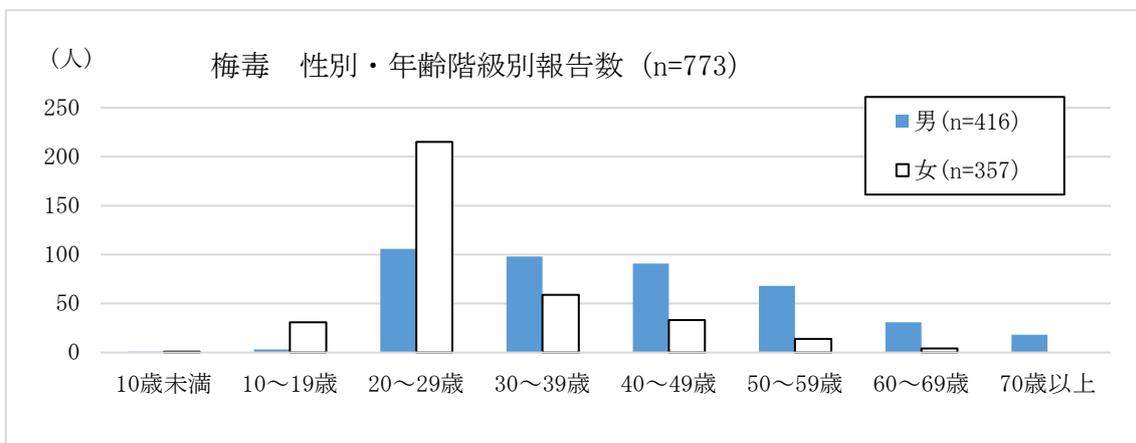
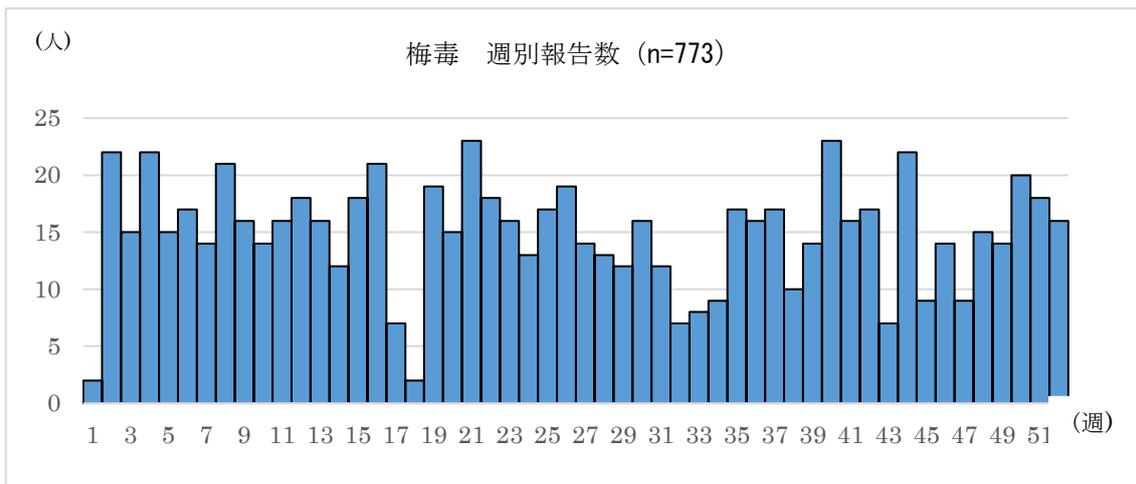
ス 梅毒

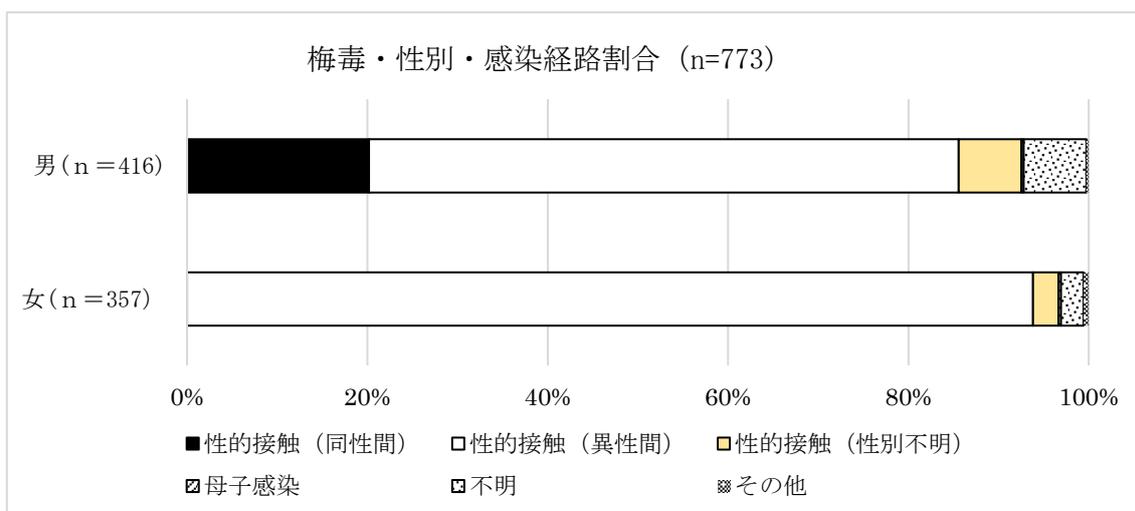
2019年は773人の報告があった。2017年は635人、2018年は864人であり2013年以降増加していたが減少に転じた。

病型別では早期顕症梅毒Ⅰ期226人、早期顕症梅毒Ⅱ期277人、晩期顕症梅毒10人、先天梅毒2人、無症候258人であった。性別は男性416人、女性357人であった。年齢階級別では10歳未満2人(いずれも0歳)、10～19歳34人、20～29歳321人、30～39歳157人、40～49歳124人、50～59歳82人、60～69歳35人、70歳以上18人で、20～59歳の男性が363人で全感染者の47%を占めた。一方、20～29歳では、321人のうち女性が215人で67%を占めた。

推定感染地は国内714人、国外10人、国内または国外2人、不明47人であり、国外感染例12人の推定感染国は韓国が4人、ベトナム、タイは各2人、インドネシア、シンガポール、フィリピン、中国は各1人であった。

推定感染経路は性的接触730人(異性間607人、同性間84人、性別不明39人)、母子感染2人、針等の鋭利なものの刺入による感染1人、その他2人、不明38人であった。また、2019年1月より発生届の内容に性風俗従事歴・利用歴の項目が新たに加わった。性風俗産業従事歴(直近6か月以内)有が210人、従事歴無が95人、従事歴不明は468人であった。性風俗産業利用歴(直近6か月以内)有が184人、利用歴無が221人、利用歴不明は368人であった。





セ 播種性クリプトコックス症

2019年は4例の報告があった。性別は男性2人、女性2人で、年齢階級別では70歳以上4人であった。推定感染地はすべて国内であった。推定感染経路は鳥類の糞などとの接触1人、免疫不全2人、不明1人であった。

ソ バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)感染症

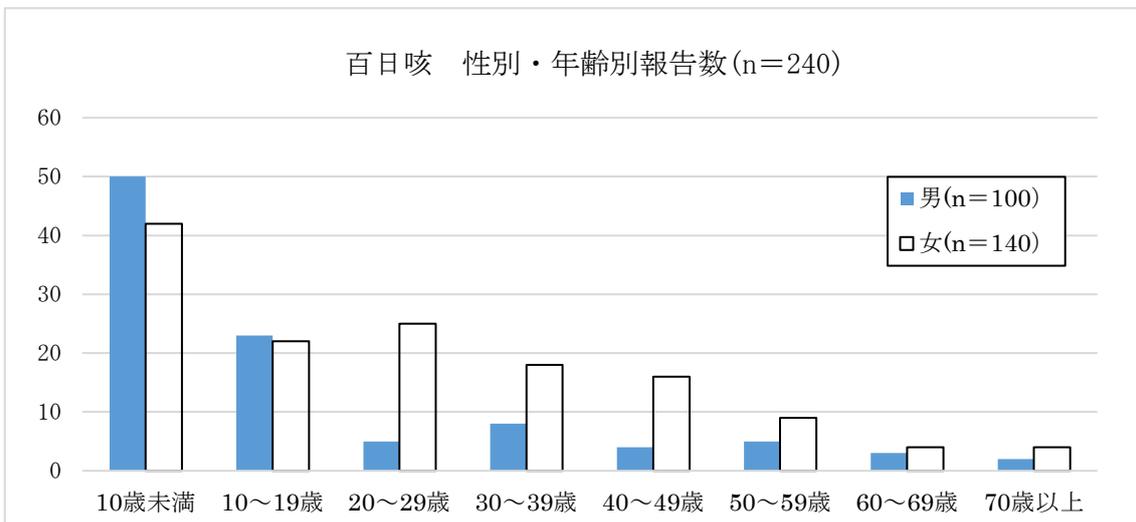
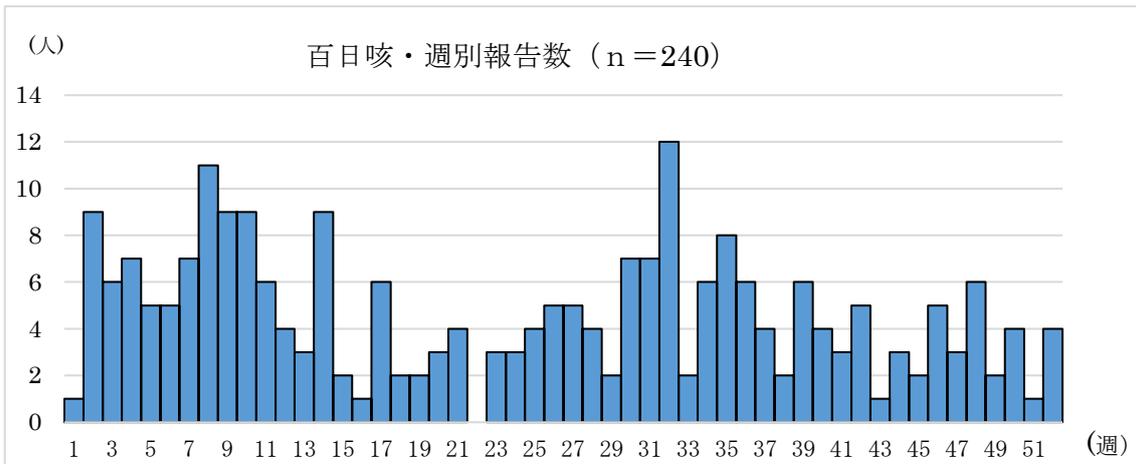
2019年は8人の報告があった。性別は男性6人、女性2人、年齢階級別では50～59歳1人、60～69歳1人、70歳以上6人であった。

菌種はすべて *Enterococcus faecium* 7人、*Enterococcus faecalis* 1人、耐性遺伝子は *vanA* が2人、不明6人であった。

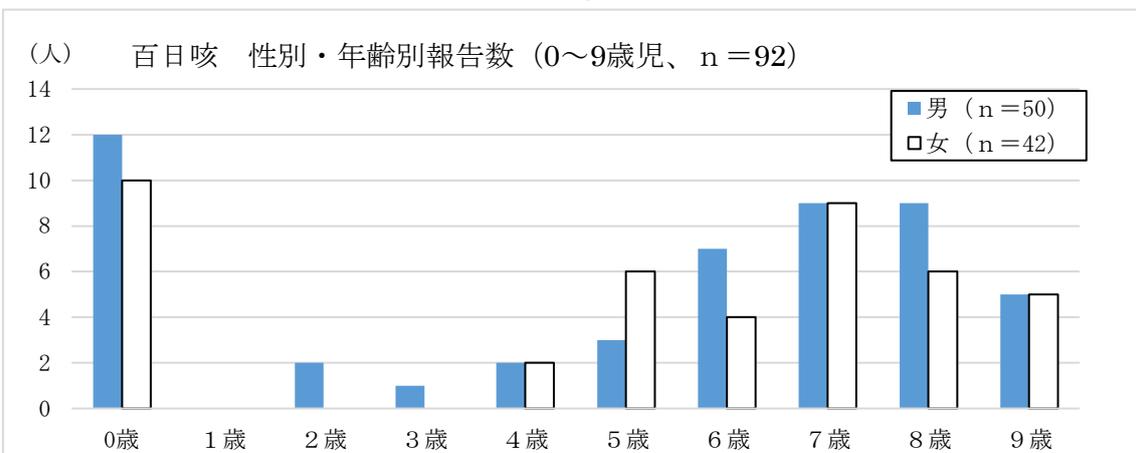
推定感染地は国内5人、不明3人であった。推定感染経路は保菌2人、病院内による感染1人、接触感染1人、不明4人であった。

タ 百日咳

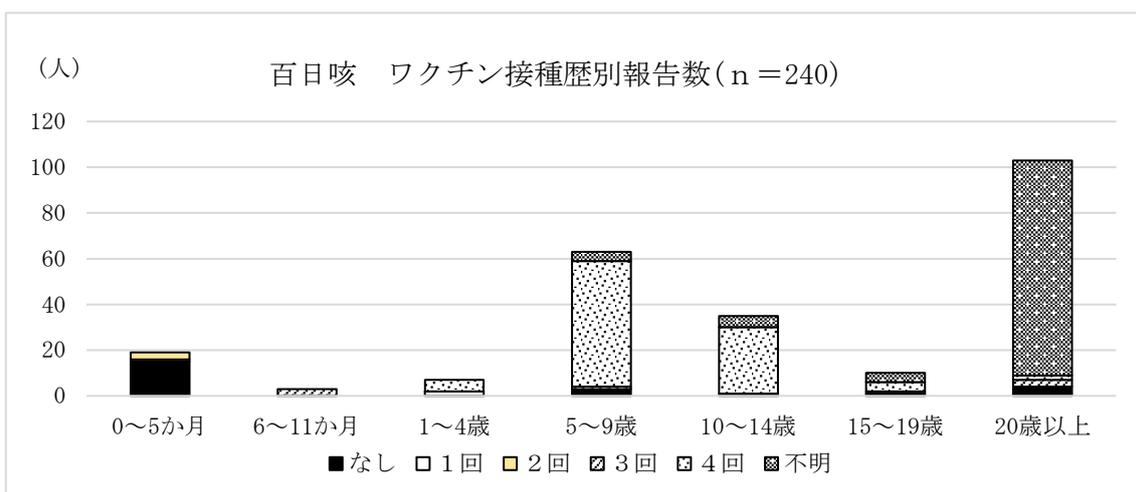
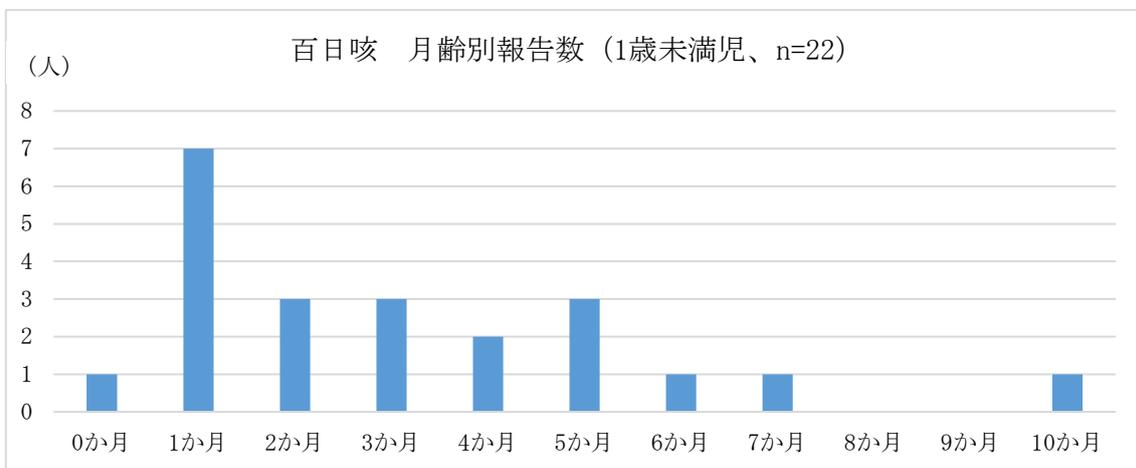
2019年は240人の報告があった。昨年441人に比べほぼ半数の報告であった。性別は男性100人、女性140人で、年齢階級別では10歳未満92人(38%)、10～19歳45人(18.8%)、20～29歳30人(12.5%)、30～39歳26人(10.8%)、40～49歳20人(8.3%)、50～59歳14人(5.8%)、60～69歳7人(2.9%)、70歳以上6人(2.5%)であった。0～14歳までの報告数は127人で、全報告数の52.9%を占めた。



年齢階級別では10歳未満が最も多く92人であった。内訳は0歳22人、2歳2人、3歳1人、4歳4人、5歳9人、6歳11人、7歳18人、8歳15人、9歳10人であり、0歳および7、8歳で二峰性のピークを認めた。



最も重症化しやすいとされる6か月未満の月齢の患者数は、20人で全報告数の8%を占めた。これらの患者の感染原因・感染経路は、11人(55%)が家族内感染（父親、母親、同胞、不明）で、その他は不明であった。



百日咳含有ワクチン接種歴別では、4回以上接種歴有が95人で全報告数の39.6%を占めた。1~4歳、5~9歳、10~14歳のワクチン既接種者はそれぞれ12人、56人、29人であり、この年代の小児患者の過半数がワクチン既接種者であった。

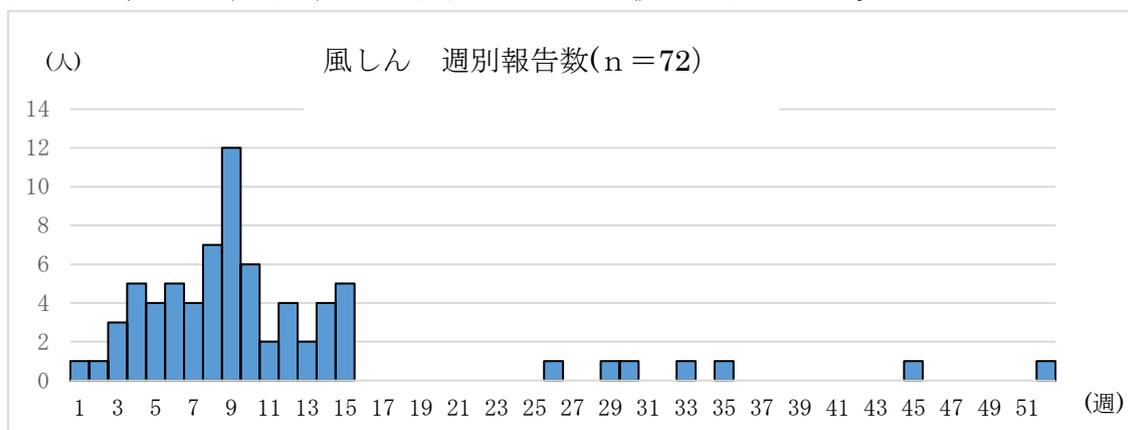
診断方法（重複あり）は、血清抗体価検査による診断が140人(58.3%)と最多で、次いで遺伝子検査が103人(42.9%)であり、また、分離・同定は3人(1.0%)、ペア血清による抗体陽転または抗体価有意上昇は1人(0.4%)、臨床決定が3人(1.0%)であった。臨床決定された患者はいずれも感染原因・感染経路で、家族内感染で、確定例との接触が疑われる患者であった。

推定感染地は国内208人(86.6%)、国外1人、不明31人であった。

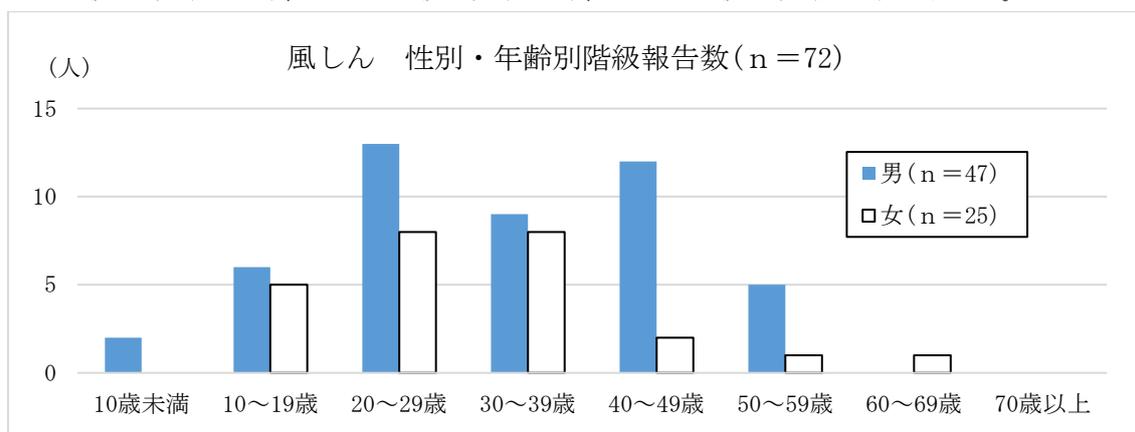
チ 風しん

風しんは法令および予防指針の改正により、2018年1月1日以降、医師は風しんと臨床診断した時点で直ちに届出を行うこと、原則として全例にウイルス遺伝子検査を実施すること、風しん患者が1例でも発生した場合には積極的疫学調査を行うことが求められるようになった。「風しんに関する特定感染症予防指針（厚生労働省告示第百二十二号：平成26年3月28日）」では、「早期に先天性風疹症候群の発生をなくすとともに、令和2年度までに風疹の排除を達成すること」を目標としている。

2019年は72人の報告があり、第15週までに報告が集中していた。過去10年の報告数の推移をみると、2008年5人、2009年4人、2010年1人、2011年17人、2012年207人、2013年1388人、2014年9人、2015年6人、2016年6人、2017年8人、2018年53人であり、2019年は前年からの流行が15週まで続いたとみられる。



性別は男性47人(65.3%)、女性25人(34.7%)であった。年齢階級別では10歳未満2人(2.8%)、10～19歳11人(15.3%)、20～29歳21人(29.2%)、30～39歳17人(23.6%)、40～49歳14人(19.4%)、50～59歳6人(8.3%)、60～69歳1人(1.4%)であった。



病型は検査診断例が71人(98.6%)、臨床診断例1人(1.4%)であった。検査診断例の検査方法の内訳(重複あり)は、PCR法によるウイルス遺伝子の検出が48人、血清IgM抗体の検出が35人であった。臨床診断例が1人であった。遺伝子型は1Eが40人であった。

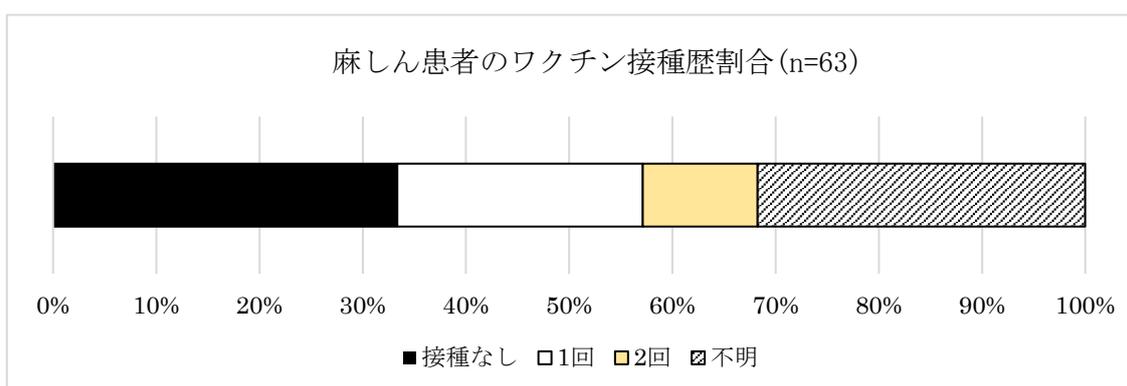
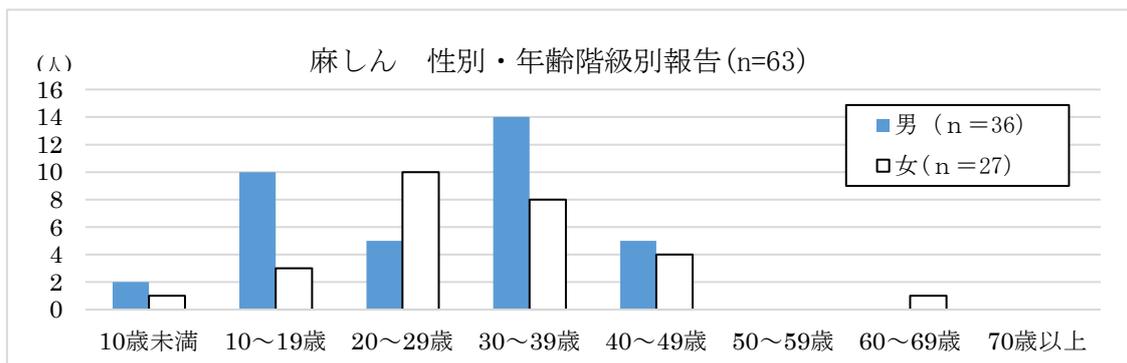
風しん含有ワクチン接種歴は、1回接種4人(5.6%)、接種歴なし19人(26.4%)、不明47人(65.3%)であり、2回接種2人(2.8%)であった。

推定感染地は国内53人(73.6%)、国外1人(1.4%)、不明18人(25.0%)であった。国外感染例の推定感染国は中国であった。

ツ 麻しん

2019年は63人の報告があった。2月に市内の大型商業施設で集団感染事例があり、関係者および利用者で24名の感染が判明した。

いずれも検査診断例であった。検査診断例の検査方法の内訳(重複あり)は、PCR法によるウイルス遺伝子の検出が55人、血清IgM抗体の検出が27人であった。また、遺伝子型はD8が37人、B3が9人であった。性別は男性36人、女性27人で、年齢階級は10歳未満3人、10～19歳13人、20～29歳15人、30～39歳22人、40～49歳9人、60～69歳1人であった推定感染地は国内47人、国外6人、不明10人で、国外感染例の感染推定国はベトナム、フィリピンが各2人、ドイツ、タイが各1人であった。麻しん含有ワクチン接種歴は2回接種7人、1回接種15人、接種歴なし21人、不明20人であった。



テ クリプトスポリジウム症

2019年は2人の報告があった。性別はすべて男性で、年齢階級別は2人とも50～59歳であった。推定感染地はすべて国内であり、感染経路はすべて同性間性的接触であった。

ト 破傷風

2019 年は 1 人の報告があった。性別は女性で、年齢階級別は 40～49 歳、推定感染地は国内であった。

ナ 薬剤耐性アシネトバクター感染症

2019 年は 1 人の報告があった。性別は女性で、年齢階級別は 60～69 歳、推定感染地は韓国であった。

ニ その他の五類感染症

以下の疾患は届出がなかった。

急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）、先天性風しん症候群（CRS）、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症。